

スズキ、インドで 5 つ目のバイオガス生産プラント設置で基本合意

- NDDB および Banas Dairy と覚書を締結し、農村向けモビリティサービスも推進 -



スズキ株式会社（以下スズキ）は、インドのカーボンニュートラルの実現に向け、5 つ目となるバイオガス生産プラントの設置と、バイオガスを使用した農村向けモビリティサービスの実証について、スズキ 100% 出資の Suzuki R&D Center India Private Limited、National Dairy Development Board（全国酪農開発機構、以下 NDDB）および Banas Dairy 社（本社：グジャラート州バナスカンタ、以下 Banas Dairy）との 3 者間で覚書を締結し、基本合意しました。

本日、Banas Dairy Sanadar 工場（グジャラート州バナスカンタ）において、近隣の酪農家が約 2,500 人集まる中、Banas Dairy のシャンカール・チョードリー会長、NDDB の S・ラジーブ取締役、スズキの鈴木俊宏社長の出席のもと覚書締結式が行われました。

3 者はグジャラート州バナスカンタ地域において、2025 年より順次 4 つのバイオガス生産プラントの設置に向けて取り組んでおり、今回新たに 5 つ目のバイオガス生産プラントを設置することに基本合意しました。

農村向けモビリティサービスは、マルチ・スズキの CNG 車にバイオガス燃料を活用し、農村地域にお住まいの方へ手の届きやすいクリーンな移動の機会を提供することを目指します。この取り組みは、まずバナスカンタ地域内で開始します。

鈴木社長は、「Banas Dairy、NDDB と協力して、バイオガス生産プラントと農村向けモビリティサービスの 2 つの事業を始めます。3 者がアイデアを出し合って、新しい生活のモデルを作り上げ、バナスカンタの発展に貢献してまいります。」と述べています。

スズキ、NDDB、Banas Dairy の 3 社は、今後もインドのカーボンニュートラルの実現と、農村部の移動を支える取り組みを推進してまいります。

以上